

花ちゃん、オー君、モンタ博士、フツ博士のかくかくドドド立ててくさ

国立市立国立第七小学校

平成29年12月12日 NO.75 (475)



アップルミント
(マルバハッカ)

花ちゃん 「モンタ^{はかせ}博士！モンタ^{はかせ}博士！たいへんです。たいへんです。大^{だいしけん}事件です。大^{だいほっけん}発見
です。オー^{くん}君がものすごいものを見^みつけてしまいました。見^みてください。」

モンタ博士 「え！どうしたの？そんなにあわててどうしたの？」

花ちゃん 「オー^{くん}君がすごい葉^はっぱを見^みつけたんです。」

オー君 「えっへん！ぼくの^{だいほっけん}大発見だ。とてもおもしろい葉^はっぱを見^みつけました。」

モンタ博士 「それでどうしたの。おちついてゆっくりとお話^{はな}ししてごらん。」

オー君 「この^{まえ}前、^{がっこう}学校うらの^{そうきばやし}雑木林で、花ちゃんといっしょに虫^{むし}でもいないかなと、
ごそごそやっていたら、何^{なん}だかとてもいいにおいがする草^{くさ}があったんです。」

モンタ博士 「それでそれで・・・、どうしたの。」

オー君 「その草^{くさ}は、リンゴみたいなにおいがしたんです。」

花ちゃん 「それから、スーッとするようなにおいでとてもいい感^{かん}じでした。」

オー君 「それで、モンタ^{はかせ}博士に見^みてもらおうと思^{おも}ってもってきたんです。」

モンタ博士 「どれどれ見^みせてごらん。ほほー。これは、マルバハッカという植^{しょくぶつ}物だね。」

オー君 「マルバハッカ！そういえば葉^はっぱは丸^{まる}いですね。」

花ちゃん 「スーツとして、ハッカみたいですね。」

モンタ博士「そうだろう。それから、このマルバハッカは、別名では、アップルミントとも呼ばれているんだよ。」

オー君 「アップルミント・・・？アップルって、リンゴということでしょ。」

花ちゃん 「ミントって、ハッカのことですね。」

モンタ博士「そうだね。このマルバハッカ、つまりアップルミントというのは、ふつうの道ばたなどにもよく見られる植物なんだ。ミントという言葉がつくのが他にもあるけど、知っているかな。」

花ちゃん 「そういえば、スペアミントとか、ペパーミントとか聞いたことあるわ。」

オー君 「ガムにそんな名前がついていたような気がするね。」

モンタ博士「そうなんだよ。植物にはいろいろなにおいのするものがあるって、それを人間は、薬や香水やお茶にしたりと、いろいろと利用してきたんだね。」

花ちゃん 「植物と人間って、むかしからとても仲良かったんですね。」

オー君 「そうだね。これからも仲良くしていこうね。ところで、モンタ博士！このアップルミントというのは、どう利用すればいいのですか。」

モンタ博士「そうだね。いろいろとあるけどね、まず、お茶にしたらいと思うよ。」

オー君 「お茶って、あのお湯を入れて飲むお茶ですか。」

モンタ博士「そうだよ。生のままお湯にひたして、少し砂糖を入れるといいよ。陰干しもいいね。お風呂に入れて楽しむのもいいね。きっと甘いリンゴのような香りでさわやかさがあり、気持ちを落ち着かせてくれるよ。そのほかにも、インターネットで探すといろいろなレシピや利用法があるから調べてごらん。」

花ちゃん 「楽しそうですね。まずは、アップルミントティーパーティーをしましょう。」

